

海洋観光に関するシンポジウム議事概要

平成27年2月13日開催

【議事概要】

第I部 基調講演・基調報告

1. 基調講演

「小笠原諸島における海洋観光の可能性」【樋口 博 小笠原村総務課企画政策室長】

- ・小笠原諸島が有する我が国の最東端と最南端に位置する南鳥島と沖ノ鳥島を観光資源と捉え、平成25年に企画した沖ノ鳥島ツアーのプログラムや企画時における課題を踏まえて海洋観光の可能性についての講演がなされた。

小笠原諸島の概要や政策方針、西之島や硫黄島といった各島の説明に加え、それぞれの島で各島のプログラムの内容説明及び沖ノ鳥島、南鳥島における今後の海洋観光の可能性として、クルーズ船の利用や、寄港地としての利用の提案がされた。

また、海洋観光は、ありのままの全てが観光資源であり、その魅せ方の工夫が必要との提言がなされた。

2. 基調報告

「海洋観光年の振興に関する検討会」のとりまとめを踏まえた国土交通省の取組みについて

○国境離島への往来促進に関する調査（中間報告）【総合政策局】

- ・インターネットアンケートによる南鳥島への観光需要に関する調査、関係者へのヒアリングの結果報告及び海洋の多面的価値の普及啓発に関する調査のアンケート結果の報告がなされた。

○クルーズ振興を通じた地方創生～クルーズ100万人時代に向けた取組～【港湾局】

- ・日本におけるクルーズの概要、これから訪れるクルーズ100万人時代に向けた取組みの報告がなされた。

○「海洋観光」に関する海事局の取組み【海事局】

- ・外航クルーズの振興、国内航路の活用・活性化、マリンレジャーの振興、「海」や「海洋観光」への国民の関心の喚起をテーマに、海事局の取組の報告がなされた。

第Ⅱ部 パネルディスカッション

以下のテーマに沿ってパネリストからの発表を行い、ディスカッションを行った。最後に矢ヶ崎紀子氏より、議論を踏まえた総括があった。

テーマ：「海洋観光について」

日本という国は海に面していながらも、海洋と国民との心の距離が感じられる。意識を海に向けた第一ステップとして、観光というツールがどのように活用できるのか、というディスカッションがなされた。

□コーディネーター

- ・矢ヶ崎 紀子（東洋大学国際地域学部国際観光学科准教授、
「海洋観光の振興に関する検討会」座長）

□パネリスト

- ・高砂 樹史（(株)おちか観光まちづくり公社代表取締役）
長崎県小値賀町の概要、島における観光の魅力、プログラム、取組み、地域活性化としての成果について紹介がなされた。
- ・高橋 由香（カナダ プリンス・エドワード島州政府観光局日本代表）
カナダ プリンス・エドワード島の観光の魅力、クルーズ等観光の取組みについて紹介がなされた。
- ・千足 耕一（東京海洋大学海洋科学系准教授）
教育からの観点を含め、「海洋観光の振興、特に海洋の周知・啓発をどのように進めるべきか」について紹介がなされた。
- ・樋口 博（小笠原村総務課企画政策室長）
基調講演概要参照

パネルディスカッション総括

- ・国民が海洋についてしっかり考えていくことができる仕組みづくりが大切である。
- ・また、海に関わる産業を担える人材づくりがこれからは重要になってくるであろう。そのためには、子どものうちから「海」を体験させる教育旅行に、大きな効果を期待できる。
- ・大人に対しては、介在者が必要である。海に関する最新の情報を世の中に広めることで、古いマイナスイメージを払拭しなければならない。良い情報が広まれば、人々は行動にうつる。そのため、次のステップとして海洋体験の中身をブラッシュアップすることが重要である。
- ・今回、「海洋観光の可能性」というテーマで議論を進めてきた。将来性のあるテーマだが、その分、課題も発生する。しかし、今後海洋観光がどの方向に向かい、何を成す事が出来るのかを突き詰め、イメージを明確にすれば課題解決に繋がるであろう。